

## 《女川原子力発電所2号機の安全対策の”いま”を紹介します》

女川原子力発電所では、昨年12月、原子力規制委員会から2号機における新規制基準への適合性に係る工事計画の認可をいただきました。これにより、安全対策工事の詳細設計が決まりましたので、現在取り組んでいる工事の内容をご紹介します。

### 国内最大級の竜巻を想定した対策

原子炉などを冷却するための海水をくみ上げる重要設備である「非常用海水ポンプ」は、屋外に設置しています。そのままでは上部が覆われていないため、竜巻による飛来物が衝突した場合、その機能を失う恐れがあります。その対策として、国内最大級の竜巻※1(100m/秒)による飛来物であっても非常用海水ポンプに衝突することを防ぐ「竜巻防護ネット」を設置します。また、竜巻の発生により、屋外にある車両などが、飛来物となって発電所の重要施設に影響を与えないよう「固縛こばく」します。

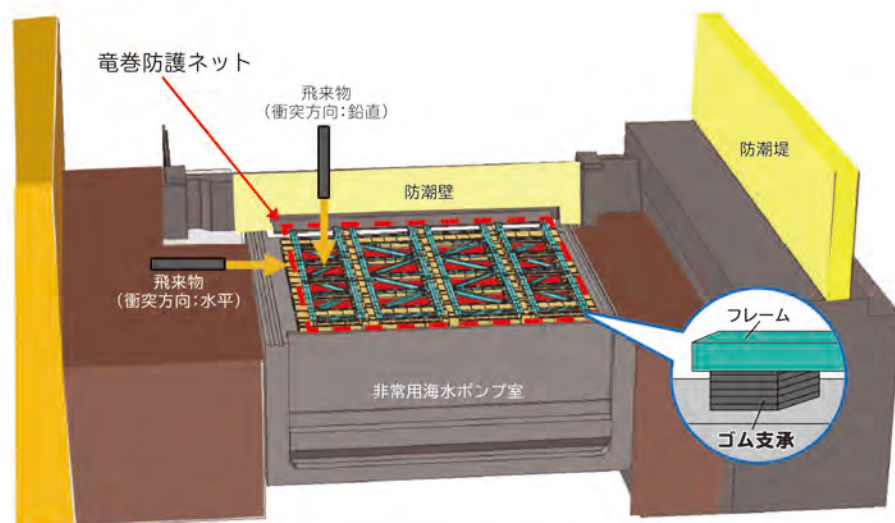
※1 日本で観測された最大の竜巻は風速92m/秒で、車両が持ち上げられて飛ばされるほどの強風。

#### 対策1 竜巻防護ネット

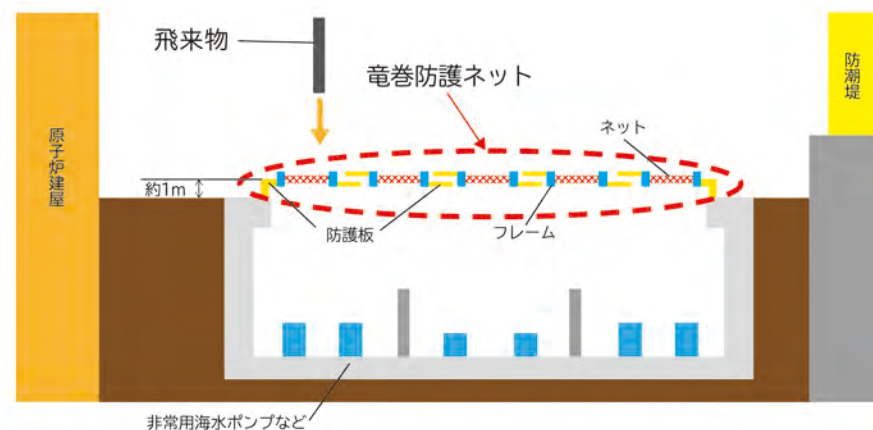
- 竜巻により、鋼製の資機材などが飛来物となっても、非常用海水ポンプに衝突しないよう、上部を覆うように設置します。
- 主に「鋼製のネット(3枚重ね)・防護板・フレーム」で構成しており、ネットに衝突しても、そのエネルギーを吸収して貫通を防ぎます。また、防護板またはフレームに衝突した場合でも、飛来物が非常用海水ポンプへ達しない設計とします。
- 重量が約500tあるため、支持部材の一つにゴム支承※2を採用し、地震による揺れの影響を低減させます。

※2 橋梁などで多く採用されている支持部材。地震時にゴムが変形することで、地震による揺れを低減させる効果がある。

#### 俯瞰イメージ図



#### 断面イメージ図



#### 対策2 車両などへの固縛こばく

- 発電所の重要施設周辺を竜巻による飛来物から守るための管理エリアに設定。原則として、その中には車両やコンテナなどを配置しない運用とします。
- 管理エリア内に車両や資機材を配置する場合には、飛来物とならないよう、地面に固縛するなどの対策を実施します。

#### 固縛イメージ図



## 《「カラクリおもちゃの世界展」を開催します》

女川原子力発電所地域総合事務所では、カラクリおもちゃの本場イギリスの作家が手掛けた22作品の展示会を開催します。ぜひ、皆さまお誘いあわせのうえお越しください。

### 展示作品の一例

入場無料



心の博物館



モンマルトルのアヌビス



お風呂のヤギさん

### 見どころ

カラクリおもちゃは、機構部を見せないのが一般的です。しかし、今回展示する作品の多くは、あえて機構部をあらわにして、「動くしくみ」が分かるようになっています。そのため、実際にボタンやハンドルを操作し、動かしながら機構部をご覧いただくことができ、子どもだけでなく、大人も楽しめる内容となっています。

●開催期間 2022年3月15日(火)～27日(日)  
10:00～16:00(土・日・祝日も開催)

●会場 女川原子力発電所 地域総合事務所1階  
(牡鹿郡女川町女川2丁目15-1) 電話番号:0225-54-3387

○ご来場の際は、検温、手指の消毒、マスク着用などにご協力をお願いします。

○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入場制限を行う場合があります。



## 《モニタリングポストにおける計測値の伝送異常について》

2021年12月7日、当発電所におきまして、発電所敷地境界の環境放射線を測定しているモニタリングポスト(全6基)の計測値が一時的に伝送できなくなる事象が発生。1月19日に原因と再発防止対策をとりまとめました。

本件につきまして、地域の皆さま、関係の皆さまにご心配をおかけしたことをお詫び申し上げます。

### モニタリングポストの役割について(動画)



## 「女川町の魅力再発見動画 第2弾」公開中

～ONAGAWA enJOINUS～

特定非営利活動法人アスヘノキボウ\*(女川町)と当発電所員有志が協働制作した「女川町の魅力再発見動画(第2弾)」が公開中です。

女川町の魅力がたっぷり詰まった内容となっておりますので、ぜひ、ご視聴ください。

\*女川町の社会課題解決を通じて、日本・世界の社会課題解決に貢献することをミッションとする団体。

### 動画視聴はこちら



### 動画の一部シーン



未来へ震災の記憶を残す「いのちの石碑プロジェクト」

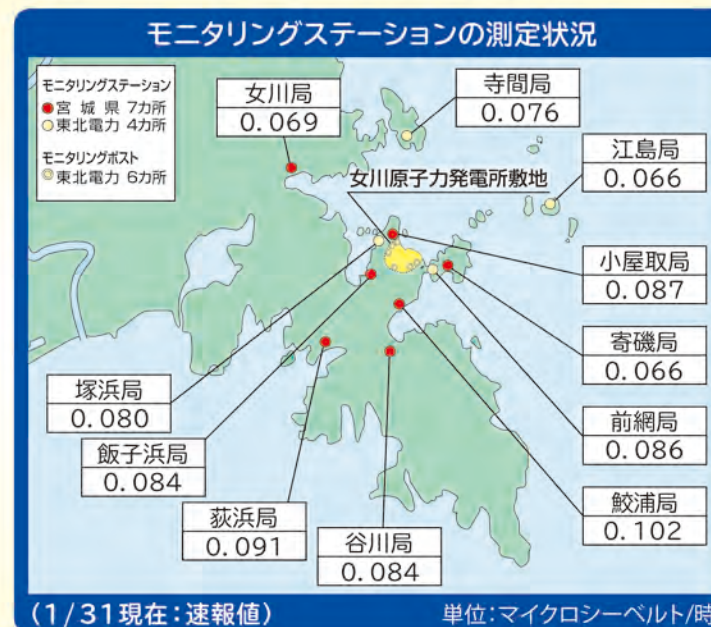


商店に喫茶店とフリースペースを併設した「佐藤貞商店」

## 《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト\*1やモニタリングステーション\*2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの2022年1月31日の測定値は、最大で0.046マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	最小値	最大値
2011年3月11日	0.027	0.064
〈地震発生後最大値〉		
2011年3月13日	1.8	21**4
〈地震発生から2年と至近2年の(4/1)値および前月値〉		
2012年4月1日	0.063	0.098
2013年4月1日	0.055	0.076
2020年4月1日	0.034	0.055
2021年4月1日	0.034	0.047
2022年1月1日	0.033	0.050
2022年1月31日	0.034	0.046

単位:マイクロシーベルト/時

\*1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されています。

\*2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

\*3 モニタリングポストの測定値は、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないため、モニタリングステーションの測定値より0.02～0.04マイクロシーベルト/時程度低い測定値となっています。

\*4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。



再生紙を利用しています